

サクラソウ全町調査

サクラソウの生育状況を調査し、有効な保全対策を立てることは、サクラソウだけではなく、軽井沢全体の多様な自然環境を守ることにあります。

サクラソウは軽井沢の町花であり、かつては草原一面にサクラソウが咲いていました。しかし、残念ながら現在では一部の限られた場所で見ることができません。



2024年5月9日 町内の自生地(撮影:伊藤良則)



サクラソウの送粉者、トラマルハナバチ(撮影:鷲谷いづみ)

サクラソウが生育するためには多様な自然環境が必要です。受粉を媒介するトラマルハナバチが少なくなればサクラソウを維持することは難しくなります。トラマルハナバチが生育するには蜜、花粉を提供するその他の野花も、古巣を提供する野ネズミの存在も必要です。サクラソウは単独で生きていくことはできません。

2000年から町花サクラソウの調査を開始しました。2010年からは、町のどこに、どのくらい咲いているかを5年に1回の頻度で調査しています。この調査結果を分析することで、現状を正確に把握し、サクラソウを取り巻く自然環境の保全に役立てる試みです。

軽井沢町のシンボルであるサクラソウを注意深く見守ることが、軽井沢の本来の自然を守ることに繋がります。